



豊かな河北潟に
夢のある干拓地に

NPO法人河北潟湖沼研究所通信

かほくがた



七豊米・田んぼの草取り

地元の方の協力を得てスタートした「七豊米」の米づくりは、今年で5年目をむかえました。大勢の協力により、手植え、草取り、稲刈り、稲架干し作業をおこない、脱穀、粳すり、精米まで自分たちでおこなう無農薬の米づくりを継続しています。昨年から「河北潟の田んぼ学校」を開催、水苗代で育苗、有機肥料に切り替えるなど、いっそう手間をかけて取り組んでいます。

今年は5月24日に田植えをしました。田植えから1週間も経つと、雑草がのびてきます。収穫までは雑草管理に気が抜けません。無農薬の田んぼでは日常的な管理作業に協働の力が求められます。6月に6回、7月に2回、9月に1回、米づくりに参加いただいている皆様に呼びかけて、草取りを実施しました。骨の折れる作業ですが、回を重ねての手作業での草取りにより、雑草を見事におさえることができました。こうした作業に携わる人たちの力なしにはできません。七豊米の米づくりでは、参加回数に応じて収穫したお米の一部を配分しています。また、石川県のすすめる「いしかわ里山ポイント制度」に登録し、里山ポイントシールを発行しています。保全活動の労力のかかるところを、ちょっとでも特典で還元できることは、継続の力になります。

CONTENTS

七豊米・田んぼの草取り	1p
河北潟の仲間たち・38「ケリ」	2p
河北潟湖面利用協議会②	3p
クラウドファンディング すずめ野菜の報告	4p
河北潟自然再生まつり報告	6p
お知らせ・活動案内	8p

第38回 ケリ

カコちゃん かほくがたナルドレン

ひろ



河北潟の周りの田んぼが活気づく田植えの時期、上空をけたたましく鳴きながら飛ぶ鳥がいます。甲高い声で「ケリリッ、ケリリッ...」と鳴き続け、一度聞いたら忘れられない、その声の主がケリです。この鳥、河北潟の仲間たちの中でもうるさいことではNo.1クラスでしょう。

チドリの仲間としては大型の鳥で、長めの黄色い脚を持っています。背面は灰色で、地面にとまっているときは地味な鳥ですが、飛び立つと、翼の先端が黒く基部の方は白っぽく、尾羽の先端は黒く縁取られ基部は白色と目立ちます。嘴は太く短めで黄色ですが、先端は黒い色をしています。目は赤橙色で黄色のアイリングがあり、望遠鏡で見ると結構目立ちます。長い脚で田んぼの中を歩き、昆虫やミミズ、カエルなどを捕まえて食べます。

名前の由来も鳴声からで、それほど鳴声が印象的な鳥ですが、何で鳴いているのかというと、近くに巣があるからです。ケリは田んぼの畦などちょっとした草むらの中に営巣します。地面にわらを敷くように植物を積み、その中に通常4個の卵を産みます。巣に近づいてくるものに対して、ヒステリックに鳴き続けるというわけです。たいへん警戒心の強い鳥で、外敵に対して果敢に攻撃を仕掛け、トビやカラスだけでなく、しばしば人に対しても飛びながら急降下してきて激しく威嚇します。これは営巣場所が地面であることで外敵が侵入しやすいことや、巣立った雛がすぐには飛べず捕食者に狙われやすいことなどが関係していると思われる。

このように、上空を飛びながらけたたましく鳴くことでその存在が目立ちますが、地面に降りているときは意外に

ひっそりと暮らしています。田んぼの畦の間からじっとしている姿が見え隠れするときは、子育ての真っ最中かもしれません。なぜ田んぼの畦などの狭い空間で、しかも人の影響を受けやすい場所で営巣するのか不思議ですが、孵化した雛がすぐに歩き出して餌をとれるという点で、畦という環境はケリにとって子育てしやすい場所なのかも知れません。こうした営巣場所の選好性から、農家との関係が深い鳥でもあり、多くの農家はこの鳥のことをよく知っています。優しい農家であれば、田んぼの耕耘の際に見つけた巣をそっと移動させてくれます。

最近では、河北潟の周辺の田んぼで畦への除草剤使用が増えており、ケリの営巣への影響が懸念されます。河北潟では今のところある程度の個体が生息していますが、隣の富山県では準絶滅危惧種に指定されています。巣を隠せる営巣場所としても、雛の採餌環境としても草の生えている畦が必要です。私たちは畦の除草剤を使わない生きもの元気米の取り組みで、ケリの営巣環境も守っていきたいと思っています。

(文：高橋 久)

記録② 問題提議から10年経過

- ・ルールが厳しいという意見や、団体に属さず個人で釣りをしている人にはルールを知らない人もまだ多いことなど、普及状況について確認した。
- ・今後の財政的なことや事務局運営については継続審議とする。

2011年2月「第3回河北潟湖面利用協議会」

- ・①河北潟湖面利用ルール運用1年を経過しての見直し、
- ②ルール普及に関する課題、③そのほかについて意見交換がおこなわれた。
- ・ルール看板5地点の確認。内灘(放水路口左岸)、内灘(干拓地正面堤防西端)、津幡町(漕艇場前)、金沢市(金腐川河口左岸)、金沢市(干拓地才田大橋西)。

2011年8月「第4回河北潟湖面利用協議会」

・話題提供「河北潟の湖岸に生息する鳥類について」

・①河北潟湖湖面利用ルール看板の効果、ルールの普及状況など、②ルール普及に関する課題（見直し点）など、③野生生物の保全について、そのほかについて意見交換がおこなわれた。

[illegible]

河北潟では、フナ釣り、バス釣り、ウェイクボード、ジェットスキー、競艇、カヌー、野鳥観察など様々な形での利用がみられます。以前は、高速で走るボートに驚いて飛び立つカモの群れが頻繁に目撃され、湖面を走るエンジン付きのボートの台数も目立ち、河北潟が狭くなった印象を受けたこともありました。河北潟の自然環境保全と、適正な湖面利用のために、話し合いが重ねられてきたことで、様々な問題が回避されているものと思われます。河北潟の湖面利用ルールの議論段階で重視されたことは、ルール作りを通じて話し合いをおこなうこと、規制される立場の側も集まってお互い納得して作ること、対話の力を重んじ時間をかけてルールを作り見直し普及することです。2012年からルールの運用と見直しが年に一回の協議会によりおこなわれています。

(次号21-3につづく。)

- ・3月にチラシを作成し、3000部を配布した。
- ・石川県河川課の協力で、河北潟の湖周囲の5箇所に看板を設置する段取りがすすんだ。かほく市では独自の看板が1基設置された。
- ・①自主ルールの普及状況、②各団体での運用状況と調整の必要性、③今後の活動について意見交換がおこなわれた。

クラウドファンディングを通じて すずめ野菜の取り組みを応援いただきました。

昨年の11月から今年の10月にかけて、READYFOR株式会社のクラウドファンディングサービスを通して、「すずめ野菜」のプロジェクトをすすめ、多くの方から応援をいただきました。クラウドファンディングと実施したプロジェクトについて紹介します。

クラウドファンディングは、支援者に対するリターン（見返り）の形態によって、「投資型」、「寄付型」、「購入型」の3つに大きく分けられています。今回実施したのは「購入型」のクラウドファンディングで、目的や課題、必要な資金等を提示し、資金提供をしてくれる支援者に対して、リターンの商品を渡す仕組みとなっています。リターンは支援金額にあわせていくつか提示し、支援する側はそれを購入するかたちで支援します。

申請したプロジェクトについて

河北潟の水辺保全を目的にした外来植物の除去活動からはじまった「すずめ野菜」は、富栄養化した河北潟の水辺から取り除かれた外来植物を、砂丘地の畑で活用し、無農薬で栽培した野菜のことです。2012年から新しい農地を借りて、群生したセイタカアワダチソウやチガヤ等を開墾して本格的に生産活動をはじめました。すずめ野菜を生産する中で、日中しか灌漑用水の水がでないこと、雨が降ると水がでなくなること、冬場は一切灌漑用水の水がストップするといった、灌漑用水の使用制限があることで、水やりに変な労力がかかると同時に、水が足りていない状態でした。そこで、いつでも野菜に水を届けることができるように、畑に貯水設備をつくり、生産体制を整えることを目的に、プロジェクトを計画して応援を呼びかけました。

クラウドファンディング（購入型）とは？

クラウドファンディングとは、Crowd（群衆）とFunding（資金調達）の造語です。やりたいことを実現するため、インターネットを介して不特定多数の人々にアイデアや目的、必要な資金等を提示し、広く大勢の方から資金や協力を得る手段を意味します。

クラウドファンディングは、やりたいことを実行しようとする人と支援者を結びつけ、「やりたいこと」が社会をより良くするために必要なこととして認められたら実現できる仕組みといえます。

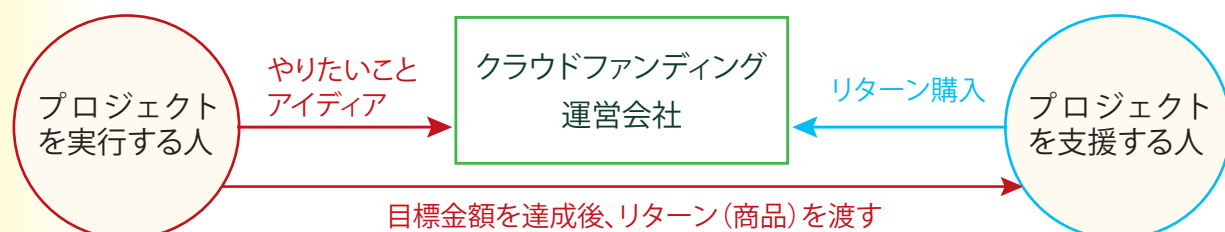
実行する人と支援者の結びつき

【プロジェクトを実行する人の利点】

- ・資金調達が可能となる。
- ・活動を多くの方に知らせることができる。
- ・支援者をつくることができる。

【支援者の利点】

- ・応援したいプロジェクトが見つけれられる。
- ・応援したいプロジェクトを応援できる。
- ・応援したプロジェクトが達成されると、実行者からお礼の商品（リターン）を受け取れる。





プロジェクトの開始から

最初にキュレーターのアドバイスと指導を受け、インターネット上で応援を呼びかけるサイトの作成をおこないました。不特定多数の方に伝わりやすい文章を作成することができていませんでしたので、キュレーターの助言から学んだことは大きいです。

インターネット上へ公開後は、期限内に目標金額を達成しなければ、企画したプロジェクトは実施できない仕組みとなっています。公開後すぐにメールで知人や会員の方達にも呼びかけさせていただきましたが、お一人の方から即応援をいただけ、とても心強い気持ちで望めました。しかし途中、達成は難しいようにも思われ、あきらめそうにもなりました。キュレーターの後押しもあって情報発信をつづき、45日間に13名の方より応援をいただき、本プロジェクトの目標金額20万円を達成することができました。目標金額達成後は、リターンとして用意していたすずめ野菜セットや生きもの元気米等にサンクスカードをそえて、支援者の皆様に発送しました。支援者への発送をすべて終えた後、READYFOR株式会社より入金がおこなわれます。計画通りローリー

タンクを畑に設置することができました。

ローリータンクは、ビニルハウスの前面に配置し、ハウスに落ちた雨水をタンクに集水するかたちにしました。上手に集水できるかわかりませんでしたので、計画には盛り込んでいませんでしたが、雨が降るとすぐに貯水され、たくさん水を使用できるようになりました。今年は他にも配水ホースなど水管理設備を整えることができ、野菜に十分に水を与え、色々な野菜をつくることができました。皆様から応援いただいたことで、すずめ野菜の活動を今後も続けていくことができます。（担当 高橋奈苗）



河北潟自然再生まつり2015 ～参加して～

2015年10月18日（日）に河北潟自然再生まつりがおこなわれました。河北潟自然再生まつりは、河北潟で活動する色々な団体の協力によって開催される秋のお祭りです。当研究所の理事長の高橋が河北潟自然再生協議会において提案したことにはじまり、2010年に第一回目が開催され、今年で6年目をむかえました。今回、実行委員の準備段階から、石川高専の学生さん達が参加し、若手が活躍しました。学生さん達がやり甲斐をもって参加し、河北潟自然再生まつりも活気ができました。河北潟の活動に若手の参加が増えることが期待されます。

環境都市工学科 坂本和輝さん

私は、今年初めて河北潟自然再生まつりの企画運営に参加しました。このように様々な団体が協力して開催するまつりの運営に参加すること自体、今まで経験したことがありませんでしたので、分からない事ばかりでした。しかし、そのような不安もはじめだけで、以前からまつりの運営に参加していた方々から助けていただき、まつりの準備期間から当日までとても楽しめました。まつり当日に、昨年作ったヨシ舟の補修を行い、それを川に浮かべ乗れたときには感動しました。また、多くの方がヨシ舟に乗ってくださり、「楽しかった！」と、言ってくれたことがまつりの運営に参加してよかったと思った瞬間でした。

環境都市工学科 一瀬竜也さん

自分は昨年の河北潟自然再生まつりにも参加していて、そのときにヨシ舟を作りました。それを浮かべたとき、時間をかけて自分たちが作ったものが浮いたのでとても感動しました。

そのヨシ舟が今年も使われると聞いたとき浮くかが心配でしたが、補修して水に浮かべたとき、ちゃんと浮いてホッとしたのと同時に作ったときとは違う感動がありました。

環境都市工学科 林 大喬さん

今まで地域のお祭りや行事に参加したことがありませんでしたので、とてもいい機会になりました。また、自然と触れ合えることがとても新鮮でした。自分たちは河北潟自然再生まつりの運営者側でもあり、参加者側でもありましたので、両方の視点で活動したことがとても印象に残りました。地域のお祭りの規模だけど準備することが山ほどあって、改めて行事というものはたくさんの人の準備や支えがあって成り立っているものだと思います。昼ごはんを食べた菜飯とめった汁がとてもおいしかったです。現在河北潟は外来種や汚染の問題が挙げられていますが、おいしいお米や野菜を生産している場所でもあるので、これからも河北潟のいいところをたくさん発信していきたいと思いました。





環境都市工学科 高山日向さん

河北潟自然再生まつりのお手伝いをさせていただきました。当日は天候にも恵まれ、良いスタートをきることができました。お祭りではたくさんのイベントが開催されていました。そのプロジェクトの一つに、ヨシというイネ科の2~3mもの大きな草を用いて作られている「ヨシ船」の補修作業を行いました。船の材料はヨシ以外に綱しか使われておらず、最初に見た時は本当にこんなもので水に浮かぶことができるのかと大きな不安がありましたが、船は無事川に浮かぶことができました。祭りに遊びに来てくれた方がたくさんヨシ船に乗ってくれました。皆さん不安を抱えながらも楽しそうにしている姿を見られたので疲れも吹き飛びました。実際私も乗らせてもらいましたが、意外と安定感があり一生に一度の良い経験をさせていただきました。

他にも外来種を用いた草木染めや、河北潟地域で育てた無農薬野菜を使用しためった汁の無料提供などさまざまなイベントが開催されています。地元の活性化、再生を目標としたこの祭りに参加させていただけて良かったです。ありがとうございました。

環境都市工学科 待寺彩香さん

今年初めて、学校の研究室の一員として参加し、用意から設営、実行そして片付けにいたるまで協力させていただき、とても貴重な社会学習をさせていただきました。一番印象に残ったのはハッタミミズダービーでした。ミミズは小学生のころ泥遊びをしていた時や、今父親の畑の手伝いをしているときによく見かけます。しかし、伸びるミミズなんてものは見たことがなく、河北潟湖

沼研究所の方々から聞く程度でした。再生まつり当日に、この企画のためにハッタミミズを持ってきた下さった夫婦の方から話を聞くと、毎年これのために採ってきているとのこと、まつり自体にこうやって参加して下さることも有難いし、ハッタミミズというものの自体に興味を持ってきている人がいるということを知り驚きました。

そして、私も河北潟自然再生まつり開催中にハッタミミズを採りにいき、75cmと新記録を出すことができ、小学生のころに戻ったように楽しむことが出来ました。来年は、今回の記録を上回るミミズを見つけてほしいと思います。

環境都市工学科 山崎稀夕さん

私は今年初めて河北潟自然再生まつりに参加しました。一番心に残っているのは“ヨシ舟”です。ヨシ舟は大人10人がかりで運ぶほど重かったので、こんなに重いものが水に浮かぶのかとても心配でしたが、大人が4人乗っても沈まなかったのが驚きました。人が来てくれるか心配でしたがたくさんの親子連れの方々が来てくださり、乗った後には「すごかったね!」「楽しかった!」などの声が聞こえてきて、とても嬉しくなりました。私もヨシ舟を体験してみたのですが、天気の良いこともあり気持ちよかったです。

すずめ野菜が入っためった汁と生き物元気米の菜飯は、たくさん活動した後だったこともあり、とても美味しくてついおかわりしてしまいました。

河北潟自然再生まつりでは、楽しく河北潟の保全活動を学べました。地域の方々ともたくさんコミュニケーションをとることができ、楽しい日となりました。前日の準備から、当日の運営、後片付けまで



参加し、河北潟自然再生まつりを丸ごと楽しむことができました。ありがとうございました！

こなん水辺公園での活動

河北潟の湖南地区にある「こなん水辺公園」において、こなん水辺公園救援隊の活動を継続しています。

間伐材を活用した椅子づくりをすすめていましたが、8月に完成し、園内の奥の花ハス田の近くに配置させました。色んな形の手作りイスが並んでいます。お弁当を持参してイスに座ってゆっくりする来園者もみられるようになりました。7月5日には、園内の水辺を観察し、水辺公園の良いところを話し合うワークショップを開催、8月2日にはツバメのねぐら入り観察を目的に夕暮れ時の観察会を実施しました。休耕地ではハーブや里芋づくりにチャレンジしましたが、こちらはうまく育ちませんでした。



くらしの自然保護

日本自然保護協会に応援いただきまして、「くらしの自然保護」において、生きもの元気米とすずめ野菜の取り組みが紹介され、期間限定商品として生きもの元気米とすずめ野菜のセット販売をおこなっています。販売期間は、9月1日～11月30日まで、日本自然保護協会ホームページからご注文いただけます。

<http://www.nacsj.or.jp/katsudo/kurashino/2015/09/post-1.html>

Aセット ¥3,000

- ・生きもの元気米 2kg
- ・すずめ野菜 (3～4種類)

Bセット ¥5,000

- ・生きもの元気米 5kg
- ・すずめ野菜 (5～6種類)



ロハスフェスタin東京に出店

2015年9月26日-27日、東京練馬区の光が丘公園にて、第6回ロハスフェスタが開催されました。生きもの元気米のPRと販売に重点をおき、七豊米、すずめ野菜も紹介しました。ロハスフェスタにはライフスタイルをみなおすという趣旨があります。消費者が田んぼの環境や場所まで追跡できる仕組みなど、生きもの元気米の特徴を説明し、ふだん食べる米として選んでもらえるよう働きかけました。また、ネオニコチノイド系農薬についてパネルを用いて説明するようにしました。準備したお米は、300g、1kg、2kgの小袋サイズで、50～60人くらいの方にご購入いただきました。



新米の販売・おまけ「元気の素」

早期予約による割引期間は4月に終わり、約1.4tのご注文をいただきましたが、残り約3.6tの販売を促進させるため、HPの特設サイトからご注文いただいた先着100名様に能登島産の塩「元気の素」をプレゼントしています。

「元気の素」は、能登島自然の里ながさきの取り組みによりつくられた手作り塩です。昔の塩づくりの技術を伝承するため、昭和20年代にみられた小屋を海辺に復元し、塩釜を置いて塩づくりがおこなわれています。里山保全を目的に伐採した木を薪にして、長崎町のきれいな海水を煮詰めて作られています。



編集後記

河北潟の環境保全米「七豊米」・「生きもの元気米」、今年も無事できました。発送作業やイベント等に追われていますが、実りある収穫に感謝です。田んぼを選べる「生きもの元気米」をより多くの方に楽しんでいただけますよう、工夫していきたいと思っています。(N.)